

地理歴史科・公民科（歴史総合）学習指導案

1 単元名 修学旅行事前平和学習  
この単元は「2 内容」の「C 国際秩序の変化や大衆化と私たち」の「(3) 経済危機と第二次世界大戦」のア・イの(イ)に該当する。

2 単元目標

- (1) 第二次世界大戦や太平洋戦争の展開とその悲惨さについて理解する。
- (2) グラフや写真、当時の新聞などの史料から、戦争に対する各国の宣伝を調べ、まとめる技能を身に付ける。
- (3) 第二次世界大戦について、日本とその他の国や地域の動向を比較し、第二次世界大戦の性格と惨禍を多面的・多角的に考察する。
- (4) 第二次世界大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを基に、平和が重要であることを理解し、戦争を起こさないために大切なことを主体的に追究しようとする態度を養う。

3 単元計画(全体4時間)

(1) 指導計画

- ・第二次世界大戦の概要 1時間
- ・太平洋戦争について 1時間
- ・原子爆弾について 1時間
- ・戦争と平和を考える 1時間 (本時4/4)

※なお、事前に課題として「戦争に関する作品を見て、感想を書く」ということを行っている。

また、第4時の後、修学旅行で平和について学び、期末考査で意見記述を行った。

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第二次世界大戦や太平洋戦争の展開とその悲惨さについて理解する。</li> <li>・グラフや写真、当時の新聞などの史料から、戦争に対する各国の宣伝を調べ、まとめる技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第二次世界大戦や太平洋戦争について、日本とその他の国や地域の動向を比較し、第二次世界大戦の性格と惨禍を多面的・多角的に考察している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第二次世界大戦や太平洋戦争が人類全体に惨禍を及ぼしたことを基に、平和が重要であることを理解し、戦争を起こさないために大切なことを主体的に追究しようとしている。</li> </ul>

(3) 指導内容及び評価計画 (○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

時	学習内容	ねらい・学習活動	評価の観点			(B)具体的な評価規準 (C)具体的支援	評価方法
			知	思	態		
第1時	【学習課題】<単元を貫く問い> 「戦争を繰り返さないために大切なことは何か」 「戦争を起こさないために、私たちはどう行動すればよいか」 ・第二次世界大戦について	【ねらい】アメリカの世界恐慌後、各国でどのようなことが起こったか考察する。 【ねらい】なぜナチ党が人々の支持を集めたのか考察する 【ねらい】第二次世界大戦の流れと結果について理解する。		●	●	(B)ナチ党が人々の支持を集めた理由について、ヴェルサイユ体制や世界恐慌の影響とヒトラーの政策などとあわせて記述している。 (B)第二次世界大戦について、流れとその悲惨さを理解している。	・ワークシートの記述を基に評価する。
			●	●			
第2時	・太平洋戦争について	【ねらい】日本の軍部がどのような行動を起こしたのか考察する。 【ねらい】太平洋戦争の流れと結果について理解する。	●	●	●	(B)日本の軍部が満州事変以後力を伸ばし、国内で軍部が政治介入していく流れを記述している。 (B)太平洋戦争の流れと悲惨さを理解している。	・ワークシートの記述を基に評価する

第3時	・原子爆弾について	【ねらい】原子爆弾がなぜ戦争で使われたのか考察するとともに、「核による平和」「核のない平和」とは何か考える。 【ねらい】広島における原爆の被害を理解する。	●	●	(B)原子爆弾がなぜ使われたのか調べ、考える。また、原爆の恐ろしさについて考察している。  (B)当時の広島での被害状況を調べ、共有している。	・ワークシートの記述を基に評価する。	
第4時	・戦争と平和を考える	【ねらい】今までの授業を基に、戦争を繰り返さないために大切なことは何か、考察する。	○	○	○	(B)資料を集め、人々の戦争における行動をみるとともに、単元を貫く問いである「戦争を繰り返さないために大切なことは何か」について記述している。	・ワークシートの記述を基に評価する。
	・期末考査	【ねらい】自分の考えを評価基準に沿って記述する。	○	○	○	(B)授業内容の理解とともに、単元を貫く問い「戦争を起こさないために、私たちはどう行動すればよいか」ということについて、自分の考えを記述している。	・答案による評価を行う。

#### 4 本時の指導と評価の計画

##### (1) 本時の目標

今までの授業内容を基に、各国の戦争遂行のためのプロパガンダについて調べ、単元を貫く問いである「戦争を繰り返さないために大切なことは何か」という問いについて考察する。

##### (2) 本時の展開

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につながる評価」)

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入 (10)	・授業内容の復習 ・「プロパガンダ」とは	・第二次世界大戦の被害を改めて確認し、各国の死者数を調べてワークシートに記入する。 ・プロパガンダとは何か調べ、記述し、理解する。	●ワークシート① ・戦争の被害の大きさについて、教科書や資料集、タブレットを使い、空欄の穴埋めをしながら確認させる。 ・プロパガンダについて言葉の意味を記述し、理解する。 【知識・理解】 【主体的に学習に取り組む態度】
展開 1 (20)	・資料読み取り・共有	・さまざまな国の、戦争前や戦時下におけるプロパガンダ資料について調べ、画像などをロイロノートの生徒間通信を使って共有する。 ・例として、アメリカが参戦に至った真珠湾攻撃に関するキャンペーンを挙げ、どのように国民感情が変化したのか考えさせる。 ・インターネットで他のプロパガンダポスターを検索し、共有する。 ・各国や日本のプロパガンダが国民にどのような影響があったのか考察する。その際、人権侵害があったかどうか考える。 ・戦争遂行のための宣伝が行われ、「戦争に至る空気」が作られていくことを理解する。	●ワークシート② ・アメリカの例を挙げる。 ・各国や日本のプロパガンダの例を調べ、画像などを挙げる。 【思考・判断・表現】  ●ワークシート③ ・画像を共有し、プロパガンダが国民にどのような影響があったのかグループで考察する。 ・戦争により大きな人権侵害が行われることを理解する。 【知識・技能】 【思考・判断・表現】

展開2 (15)	・【問い】「戦争を繰り返さないために大切なことは何か」	・【問い】について、戦争に至るまでの国のプロパガンダやそれによる国民の行動について考察した上で、戦争が「最悪の人権侵害」であることを理解し、戦争を繰り返さないために大切なことは何か考える。 ・ロイロノートで【問い】について考えた答えを共有する。時間があれば発言して共有する。	○ワークシート④（評価問題①） （ロイロノートの提出箱に提出する） ・【問い】を提示し、今までの授業を振り返って考えるよう指示する。 【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】
まとめ (5)	・自分の行動を考える	・平和や人権のためにどのような行動が必要なのか、考える。	・昨今のSNSにおける「炎上」「誹謗中傷」などについても考えさせる。

### (3) 本時の評価規準

第二次世界大戦の被害の大きさを理解し、各国が行った戦争遂行のためのプロパガンダがどのような影響を国民に与えたのか考察するとともに、戦争が大きな人権侵害であることを理解している。さらに、単元を貫く問いである「戦争を繰り返さないために大切なことは何か」という問いについて考え、記述している。

## 5 評価問題（評価材料）及び評価規準

### (1) ワークシート④【思考・判断・表現】

・「戦争を繰り返さないために大切なことは何か」

#### 評価規準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例

・戦争における人々の意見形成について考え、戦争を繰り返さないためにどうすればよいか、自分の考えを記述している。

「十分満足できる」状況（A）と判断される例

・メディアによる扇動や戦争における人権の問題を考えながら、戦争を繰り返さないためにどうすればよいか、自分の考えを記述している。

「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の例と教師の指導

・戦争における意見の形成や人々の動きと関連付けて記述することができていない。→教師は改めてメディアや人々による空気の形成と、戦争を繰り返さないための個人の考えが重要であることを伝える。

### (2) 評価問題①【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】

・「戦争を起ささないために私たちはどう行動すればよいか」

#### 評価規準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例

・事前学習や修学旅行を振り返り、平和のために自分がどのように行動すればよいか、意見を書いている。

「十分満足できる」状況（A）と判断される例

・事前学習や修学旅行を振り返り、戦争が人権侵害であることを理解し、いじめや差別など身近な人権侵害を無くすことが平和への行動に繋がることを理解し、自分の意見を書いている。

「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の例と教師の指導

・戦争や平和について考えることはできているが、どのように行動すればよいか、具体的に意見を書くことができていない。→自分がどう行動していくのか、考えるよう促す。

## 6 成果と課題

今回、テーマ学習としての平和教育を設定し、「歴史総合であればどのように教えるか」を想定して授業を実施した。2年生74名に対し、修学旅行前の4時間を利用し、日本史の授業や現代社会の授業を利用して行った。

新学習指導要領によれば、第二次世界大戦の部分の目標を、(1) 世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺、第二次世界大戦の展開について理解する、(2) グラフや写真、当時の新聞などの史料から、世界恐慌やファシズムの伸張、国際協調体制の動揺、第二次世界大戦の推移などに関する情報を調べ、まとめる技能を身に付ける、(3) 第二次世界大戦について主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第二次世界大戦の性格と惨禍を多面的・多角的に考察し表現している、(4) 第二次世界大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを基に、平和で民主的な国際社会の実現に努めることが大切であると認識し、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う、などとしている。

第二次世界大戦と太平洋戦争を世界的な視野で教えることは当然であるが、ここでは(4)の目標に注目して授業展開を構想した。

本校はタブレット端末が1人1台端末として割り当てられているため、今回はICT（主にインターネット・ロイノート）を活用した授業として想定し、より視覚的に分かりやすい「プロパガンダポスター」を題材に、平和教育＝人権教育といったことも取り入れた。

生徒の反応はすこぶる良く、こちらが思っている以上に多くのプロパガンダポスターをインターネット上から探し、共有することができた。その中で生徒からは「『BUY WAR BONDS』とはどのような意味か」や「日本兵の描かれ方」「各国のデザインの違い」などの疑問や意見が出された。

さらに、上記のような疑問をインターネットで調べることで、より深くプロパガンダというものを学んでいる生徒も多かった。このような学習は、新学習指導要領の(2) グラフや写真、当時の新聞などの史料から、世界恐慌やファシズムの伸張、国際協調体制の動揺、第二次世界大戦の推移などに関する情報を調べ、まとめる技能を身に付けるという項目の評価としても応用が可能であろうと思われる。

評価については、ワークシート④でロイノートによる提出箱の活用を行った。ただ、今回の取り組みでは評価規準を生徒に対して事前にきちんと明示できておらず、A評価とすることができる生徒はいなかった。また、B評価の生徒も15名程度であった。その他の生徒は、戦争を繰り返さないための方法論として一般的な平和に関する記述をすることができているにとどまった。授業内で取り上げたプロパガンダと人権問題に関して書く、という方向性をワークシートの間に示すことができれば、結果は異なっていたと考えられる。しかし、生徒の能力によっては評価規準を示さずとも授業の展開を読み取って記述ができると思われるので、学校の特性に応じた設定が必要である。

評価問題①においては、明確に「人権侵害である」という言葉を使って記述することができる生徒が少なかった。ここでは評価規準の見直しや事前に生徒にしっかりと評価規準を明示することが必要であると考え、「人権侵害である」という言葉を使用しなくても「命の大切さを考える」「差別やいじめなどを無くす」といった意見を書いた生徒が18名おり、今回はこれをA評価としたいと考えている。

一方、ほぼ全ての生徒が書いていたのが「戦争について学び、後世に伝えていくこと」「話し合いで解決できることを考える」といったような内容である。これは修学旅行で平和記念資料館を訪れ、被爆者の方の講話を聴いた後であったことが影響していると思われ、結果的には74名全ての生徒がB判定以上の評価を得ることができた。しかし、一部には「戦争を個人の行動で起こさないようにすることはできないと考えるが」と前置きした上で記述した生徒もおり、平和教育の難しさを実感した。

繰り返しになるが、今回は新学習指導要領にある、(4) 第二次世界大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを基に、平和で民主的な国際社会の実現に努めることが大切であると認識し、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う、という部分に注目して評価を行った。結果として、授業を実施した74名の生徒全員に対して、「平和で民主的な国際社会の実現に努めることが大切であると認識」させることができたと考えている。

現在、SNS上でいわゆる「炎上」などの心無い誹謗中傷が相次いでいる。メディアによる扇動がいかにも恐ろしいかは、現代に生きる高校生の方が実感として大きいことは容易に想像できる。その中

で、戦争が人権侵害であることを知り、「どうすれば戦争を起こさないようにできるか」を考えることは大変意義があった。

課題として、今回は2年生の修学旅行の事前学習としてのテーマ学習を実施したが、実際の歴史総合の授業の中でどのように授業を設定するかは考える必要がある。歴史総合の教科書などを確認したが、可能な場所はやはり第二次世界大戦や太平洋戦争の終戦を教えた後、まとめとして実施するのが適切であると考えられる。

また、評価規準についても見直す必要がある。今回の実践で強く感じたことは「いかに評価規準を明示するか」である。プロパガンダによる扇動や空気の形成を考えさせることで戦争を人権問題として捉え、現代のSNSにおける誹謗中傷やメディアの影響などにも着目させることができるのではないかと構想した授業ではあったが、生徒に戦争とメディア、および人権という言葉を意識づけて関連させることが難しかった。最初に評価規準を明示し「何を中心に考えるのか」をきちんと生徒に伝えることで、より考えさせたい部分を絞ることが必要であった。

多くの先生方がさまざまな方法で平和教育に取り組んでおられるが、今後も平和教育については自分なりにさまざまな工夫を実践していきたい。

## 7 参考文献

- ・『戦争プロパガンダ 10 の法則』（アンヌ・モレリ著、永田千奈訳、草思社）
- ・『プロパガンダポスターにみる日本の戦争』（田島奈都子編著、勉誠出版）
- ・『プロパガンダ株式会社 アメリカ文化の広告代理店』（ナンシー・スノー著、椿正晴訳、神保哲生解説、明石書店）
- ・『楽しいプロパガンダ』（辻田真佐憲著、イースト・プレス）
- ・『宣伝謀略ピラで読む、日中・太平洋戦争 空を舞う紙の爆弾「伝単」図録』（一ノ瀬俊也、著柏書房）